

# 国際交流員ウルリーケ・エアメル のグータンク!

*grüßen Tag!*



最終回 | お世話になりました!  
いつかまた会えるように!

正直に言えば、私が国際交流員になるために応募した時、意味や仕事の内容についてはっきりとしたイメージを持っていませんでした。前任者や先輩の話を聞き、インターネットでいろいろ調べながら、だいたい分かってきました。

やっぱり、実際に経験しないと…半信半疑…皆さんがよく知ってますね。その通り私自身が国際交流しながら、成長しました。

まず、私の役割や立場、地域の様子、住民の考え方、たくさん不明な部分がありました。すぐ気がついたのは、一番最初のコラムに書いた通り…下野市はすごくいいところです。生活しやすいし、住民がとても優しいし、すぐに新しい故郷が大好きになりました。1年間いる予定でしたのに、3年間栃木県で楽しく暮らしました。そして、国際交流員として活動しました。

現在では、グローバル化に伴い、世界が近づくほど、異文化や各国の人々のお互いに対する恐怖感が激しくなるといふ恐ろしい矛盾がみられますが、日本はまだまだいい方だと思います。この3年間、私は一人では何もできませんでした。私は一人では何も実現できません、私は一人では国際交流もできませんが、皆さんのおかげで思い出がたくさん作れました。いい思い出

3年前の8月、蒸し暑い盛夏に日本にきました。12時間のフライト、東京での3日間の事前研修を受けてから、やっと旧石橋町役場に着きました。まだよく覚えていません。とても疲れましたが、やる気があったて、緊張しながら町長室で委嘱状にサインしました。分からないことがたくさんあって、不安の気持ちがいっぱいのなか、国際交流員になりました。その時から3年が経ちました。あつという間に。

国際交流員、国際交流、国際理解などの言葉はあちこちから耳に入ってきますが、その言葉の意味はいつか知りたいなんでしょう?

出はももちろん書ききれないほど多いですが、私の活動が役に立たないという思いもあって、がっかりした時もありました。そこにこそ国際交流の必要性を感じました。そして、この交流を「世界の旅」、ドイツ語講座、英会話、学校訪問などの事業の開催を通して、何よりも皆さんを通して実行しました。

しかし、これらのような明らかに『国際交流事業』という名前がつけられた事業以外、もっと深いレベルの交流があると思います。それは日常生活の上での経験というものです。

それで、自分の国と違う国に住み、異文化を経験すれば、自身の考え方を直すべきところもあるという気がしました。このあいだ書いた通り、私に会った市民の方の中には、「ちょっと不思議な人だな」と思った方もいると思います。同じように、私も3年間の間、ちょっと慣れにくいと思ったこともいっぱいありました。ある事に対しては、3年たった今になって理解できるようになりましたが、今でもなかなか慣れない事がまだまだあるのも事実です。しかし、お互いの違いを感じるというのは、悪いことだとは思いません。

逆にそれこそが貴重な経験だと思えます。違う生き方を見て、自分のあり方を考え直して、自分にとって正しいと思つたもの

お世話になりました...ウリさん!

3年間、国際交流活動にご尽力いただいた国際交流員のウルリーケ・エアメルさんが、任期満了のため8月上旬に帰国することになりました。帰国後のウリさんの更なるご活躍を期待したいと思います。長い間、大変お世話になりました。ありがとうございました!!

## 国際交流員ウリさんの『世界の旅』 「お礼・国際・ポットラック・パーティー」

最終回

8月にウリさんが帰国します。「世界の旅」で今までお世話になった講師と一緒に世界の料理を楽しみましょう! 友達を誘って、是非ご参加ください! お待ちしています。

日時 7月8日(土)  
時間 午後6時~  
場所 下野市グリムの館  
対象 一般市民(大人) 子供参加可能  
参加費 500円(中学生以下無料)  
プラス料理一品持ち込み(2人前)  
時節柄、生ものはご遠慮ください。  
定員 60名  
7月6日木まで、電話で受付します。

申し込み 生活課  
問い合わせ先 ☎40-5555

を見習うというのは、異文化体験のすばらしさそのものだと思います。そして、自分に合わないと思つたことを無理やり受け入れようとする必要もないと思います。相手は、少なくとも、相手の人のやり方を尊重するのはなによりも大事だと思います。自分のあり方を意識し、理解してから相手に対しての理解が可能になります。それが本当の国際交流の意味だと思います。そうすれば、世界が近づいてきて、怖がらないで相手と接することができます。

8月から私の代わりに新しいドイツ人の国際交流員が下野市に来ますが、下野市の皆さまが私の時と同じように、彼女をやさしく受け入れてくれると思いますので、どうぞこれからも楽しい国際交流を続けてください。最後になりますが、3年間、私を支えてくれた、私の面倒を見てくれた、私の安全を守ってくれた、私を励ましてくれた、旧石橋町や下野市の皆さまへ、心から感謝を申し上げます。いつか必ず戻ってきたいと思えます。それまで皆さまのご健康とお幸せを心からお祈りします。